

縄文の森から

From JOMON NO MORI

第7号

《研究ノート》

石器石材としての大川原産珪質岩
黒川 忠広

鹿児島県における中世掘立柱建物跡の基礎的研究
―県本土を中心とした集成と若干の考察―
相美 郁恵

鹿児島（鶴丸）城下町の計画性
東 和幸

志布志市高吉B遺跡出土品の分析結果について
調査課第一調査係, (株)パレオ・ラボ, (株)パリオ・サーヴェイ

鹿児島県内出土のガラス玉の化学分析
中井 泉, 柳瀬 和也, 松崎 真弓, 澤村 大地, 永濱 功治

地域の素材を活用した社会科の学習指導
―地域にある遺跡や遺物を活用した歴史の授業を通して―
宗岡 克英

《資料紹介》

万之瀬川下流の上水流遺跡出土東南アジア陶器の資料紹介
上床 真

収蔵遺物保存活用化事業
―豎野（冷水）窯跡の再整理を中心に―
調査課第一調査係

京田遺跡出土木簡のレプリカ製作
―墨書の再検討と実測図の修正―
調査課第二調査係

平成25年度 年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター
2014. 6

『縄文の森から』第7号 目次

《研究ノート》

石器石材としての大川原産珪質岩

黒川 忠広・・・・・・・・ 1

鹿児島県における中世掘立柱建物跡の基礎的研究 ―県本土を中心とした集成と若干の考察―

相美 郁恵・・・・・・・・ 9

鹿児島（鶴丸）城下町の計画性

東 和幸・・・・・・・・ 25

志布志市高吉B遺跡出土品の分析結果について

調査課第一調査係

(株)パレオ・ラボ, (株)パリノ・サーヴェイ・・・・・・・・ 33

鹿児島県内出土のガラス玉の化学分析

中井 泉, 柳瀬 和也, 松崎 真弓, 澤村 大地, 永濱 功治・・・・・・・・ 45

地域の素材を活用した社会科の学習指導

―地域にある遺跡や遺物を活用した歴史の授業を通して―

宗岡 克英・・・・・・・・ 51

《資料紹介》

万之瀬川下流の上水流遺跡出土東南アジア陶器の資料紹介

上床 真・・・・・・・・ 57

収蔵遺物保存活用化事業 ―豎野（冷水）窯跡の再整理を中心に―

調査課第一調査係・・・・・・・・ 65

京田遺跡出土木簡のレプリカ製作 ―墨書の再検討と実測図の修正―

調査課第二調査係・・・・・・・・ 83

平成25年度年報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87

京田遺跡出土木簡のレプリカ製作

－墨書の再検討と実測図の修正－

調査課第二調査係

Making a replica of wooden writing tablet excavated from Kyoden Site

The second section of the research department

要旨

京田遺跡から出土した棒状木簡のレプリカを製作するにあたり、保存処理後に撮影した最新の赤外線デジタル写真等を用いて墨書の再検討を行い、実測図を修正してレプリカへの転写を行った。またX線検査等により木簡自体が非常に脆い状態であることが判明したため、樹脂を塗布することにより強化を図った。また樹種同定も行い、ブナ科シイ属であることも判明した。

キーワード 京田遺跡, 棒状木簡, レプリカ, 墨書, 樹種同定

1 レプリカ製作の趣旨

京田遺跡（鹿児島県薩摩川内市中郷町）から出土した四面に墨書のある棒状木簡は、本県初の古代木簡としての価値はもとより、墨書の中に「嘉祥三年（850年）」という年紀が明記され、郡司の「大領薩麻公」が発給した告知札であることなどから、古代日本の地方行政のあり方などを考える上で非常に貴重な資料とされ、県指定の文化財（考古資料の第1号）ともなっている。

しかしながら紫外線等による墨書の劣化や脆弱な木簡の損壊を避けるため、これまでほとんど公開・展示することもできず、当センターの特別収蔵庫に保管されたままであった。よってこのように貴重な資料を公開していく方策の一つとして木簡のレプリカを製作し、広く展示・活用につなげていくこととした。

またこの機会に、木簡の外観を損ねない部分で試料を採取し、樹種同定も実施した。

2 レプリカ製作方針

レプリカの製作にあたっては、棒状という特殊な形状をそのまま表現するために、シリコンによる型取りを行い、その型を元にレプリカの本体を製作し、それに着色、墨書の転写を行った。

墨書については展示・活用する際のわかりやすさを重視して、読み取れている墨書や墨痕の濃度を上げて転写し、「読める木簡」として復元することとした。

尚、レプリカの製作は吉田生物研究所に委託した。

3 木簡の状態と強化処理について

平成13年に発掘された木簡は、墨書の検討や実測図の

作成の後、奈良文化財研究所保存科学研究室高妻洋成氏に依頼し、30%のPEG含浸と真空凍結乾燥法により保存処理されている（平成13～14年度）。

今回レプリカの製作にあたり木簡の状態を詳しく観察したところ、横方向のヒビ割れが数か所確認され、X線撮影による調査ではそのヒビが深部まで及んでいること、またほかにも細かなヒビが多数入っていることが認められた。木簡はかなり脆弱な状態にあることが判明したため、型取り等の工程に入る前に文化財専用の樹脂（アルタイン）を表面から塗布して強化処理を行った。

また、この樹脂を塗布した副次的な効果により、白木のようにであった木簡の色調が若干濡れ色を呈し、本来の木の色に近い状態となった。よってレプリカの木部の着色もこの強化処理後の色調を写すことにした。

4 墨書の再検討

木簡の墨書については、当時まだ木簡を保存処理する以前に、奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部史料調査室（当時。室長渡辺晃宏氏）に積読を依頼し、合わせて同写真資料調査室（当時）の中村一郎氏による赤外線デジタル撮影を実施した。その結果を受けて作成された木簡の実測図が京田遺跡報告書1)の第92図に掲載されている。

当初はこの実測図をそのまま転写する予定であったが、今回のレプリカ製作にあたり先述の渡辺室長に問い合わせたところ、保存処理後に新たな文字が判別できる可能性があるとのことであった。よって最新の赤外線デジタルカメラ等を用いた再撮影と積読の再検討を渡辺室長に依頼した。

その結果、新たな文字の釈読などの進展はみられなかったものの、第三面に書かれている「大領薩麻公」の下に文字らしい墨痕が認められ、郡司である薩麻公の自著である可能性もあることが指摘された。またにじんでいたような墨跡が明瞭になった部分もあった。

この再検討をもとにして、渡辺室長の監修により木簡実測図の修正を行ったのが第1図である。全体的にすっきりとした印象である。報告書掲載の実測図には墨書の脇に添えた釈文に誤字もあり、この機会に訂正した。今後京田木簡の実測図を使用する際は、この図を利用してもらいたい。

5 樹種同定

樹種同定の結果は、ブナ科シイ属との報告であった。

6 今後に向けて

このような過程を経て完成したのが写真2に示したレ

プリカである。今後は上野原縄文の森展示館での展示のほか、出土地である薩摩川内市での里帰り展示、条里制などの律令制度を学習する際の具体的な郷土資料として、中学校・高校の授業での活用など、さまざまな場面での活用法を考えていきたい。

謝辞

奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室の渡辺晃宏室長には、御多忙のところ墨書の再検討を快く引き受けていただき、実測図の監修まで懇切丁寧に御指導いただいた。また、再撮影も前回同様に中村一郎氏（同研究所企画調整部写真室）にお手を煩わせた。記して感謝いたします。

- 1) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 81
京田遺跡 2005.3

（文責 大久保浩二）



写真1 実物（左）とレプリカ（右）の比較



写真2 京田遺跡出土木簡レプリカ（四面展開）